

令和2年度「学び合い」 第7回「美術」授業研究より

1月25日（月）、第7回校内授業研の「美術」の授業が行われました。板書を通して生徒に立体的なイメージを伝えたり、過去の作品をもとに作業のイメージをさせたりする場面が、スムーズな作業につながっていました。一方で、協議会では、手順が「見える化」されることによって、より作業効率が上がることが想定されるという意見もありました。さまざまな授業研究を通して、校内で板書の在り方等、授業の質を向上させる取組が共有できています。



集中して説明を聞く姿は日頃から



教卓へ生徒が集まる＝意欲



アドバイスを皆で聞いて理解

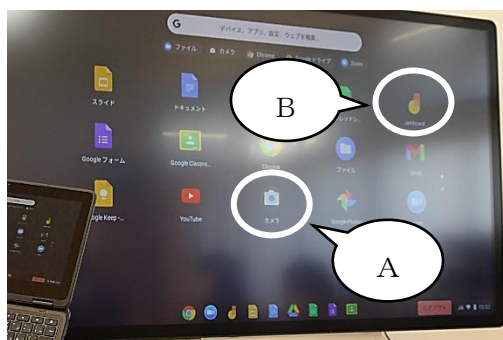
協議会のまとめ

1. 今日の授業から ～「学び合いの手法」について～

- 本時の授業のめあてが「明暗を増やす構成を考える」であった。それならば、今日は先生が説明された下絵の手法を、生徒自らが発見できるような展開にすると、『学び合い』を活用して生徒の学びを広げ、深めることができるのではないか。
- グループでの『学び合い』を取り入れると、グループ内で解決しようという意欲が高まり、時間の面からも効率的な授業構成ができる。そこからグループを超えた『学び合い』が広がっていく可能性もある。

2. 柏原永知指導主事の指導助言から

- 生徒の意欲が非常に高い。その背景には、①具体的な教材が用意されていたこと、②自己選択できる場が整っていたこと（資料選択の場）、③具体物を触りながらの活動であったこと、の3点が挙げられる。視覚的な提示が、生徒のうなずきながら説明を聞く姿につながっていた。
- 明暗を意識して生徒が活動するために
 - ・ もっと作品に触る時間を作ることで体感的に明暗構成を理解できる。
 - ・ 個の学びを全体へ広げていくこと。個別のアドバイスの中に本時のねらいに迫る内容があった。
 - ・ 意図的な『学び合い』の場を設定すること。その手立てとしてICT（chromebook）の活用を。



～活用の例：作品を「カメラ」で撮影し、「Jamboard」で共有
→工夫すべき点等をグループのメンバーに書き込ませる ～
※左の写真のAが「カメラ」、Bが「Jamboard（ジャムボード）」



協議会も
ICT化

◎今年度もご協力ありがとうございました。“先生も生徒もともに学び合う四中”。来年度もがんばりましょう！